



# 協力会だより

第49号

発行 山梨県立考古博物館協力会

〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923

発行日 令和8年3月26日発行

電話 055-266-3881

<https://www.pref.yamanashi.jp/kouko-hak/>

FAX 055-266-3882



県内研修：大塚古墳



春季勉強会



ガイド研修②

## R7年度 主な活動

- ・令和7年度考古博物館協力会総会 (4/19)
- ・ミュージアムショップ (4月～3月)
- ・ボランティアガイド (5月～3月)
- ・学校勾玉作り・火起こし体験補助 (5月～12月)
- ・こどもまつり (5/3・4)
- ・常設展移設作業 (9/20・21)
- ・第42回特別展「PAPUA×JOMON」 (9/27～12/7)
- ・秋のふれあいまつり (10/19)
- ・常設展復旧作業 (12/11・12)
- ・県民の日イベント「パプアとジョーモン」 (11/20)
- ・考古博deお正月 (1/2・3)
- ・古代米でもちつき大会 (1/12)
- ・考古博de春まつり (3/8)

## R7年度 研修・勉強会

- ・勾玉作り・火起こし研修 (4/19・24)
- ・春季企画展勉強会 (4/24・5/5)
- ・ミュージアムショップ研修 (5/27・31)
- ・ボランティアガイド研修① (5/14・31)
- ・県内研修 (6/7)
- ・ボランティアガイド研修② (7/16・20)
- ・夏季企画展勉強会 (8/1・3)
- ・特別展勉強会 (9/26・11/3)
- ・県外研修 (2/8) 中止
- ・ボランティアガイド研修③ (2/19・21)

# 令和7年度の活動・研修・勉強会の記録

## 令和7年度 協力会総会

令和7年4月19日（土）、風土記の丘研修センターにて山梨県立考古博物館協力会総会が行われました。当日は、新会員19名を含む84名の皆さんに委嘱状が交付されました。また、10年間・20年間にわたり協力員として活動して下さった皆様へ永年感謝状が贈呈され、会場から大きな拍手が送られました。今年度も、昨年度に好評だった曜日班ごとの座席配置を継続しました。同じ班で活動する仲間同士が交流でき、和やかな雰囲気での総会が進みました。さらに、ボランティアガイドマスター7名、ボランティアガイド16名（うち新規2名）の皆様にガイド証が交付されました。加えて、前年度に多く貢献して下さった7名の会員の皆様へ出労感謝記念品が贈られました。

総会後は休憩をはさみ、館長による“記念講演「パプアニューギニアの文化と社会」”が行われ、参加者の皆さんは興味深く耳を傾けていました。



【春季勉強会】4/24・5/5「帆立貝古墳のミステリーー三珠大塚古墳と甲府盆地の5世紀ー」について解説を聞きました。



【こどもまつり】5/3・5/4 多くの会員の方にご協力いただきました。ありがとうございました！



【ショップ研修】 5/27・5/31



【ガイド研修①】 5/14・5/31



【ガイド研修②】 7/16・7/20



【ガイド研修③】 2/19・2/21



【夏季勉強会】 8/1・8/3 「釣手土器の世界」





**蒲生慶一さん**

4月より協力員となって初めての県内研修となりました。企画展に合わせたタイムリーな研修ありがとうございました。企画展の説明会にも参加しましたが、実際に現地で確認できたことで、理解を深めることができましたと感じています。

私がイメージしていた大塚古墳はもう少し小さいものでしたが、大きな古墳で特に高さがあることでイメージが一新されました。また、現地での説明で、この地が信濃方面から甲府盆地に来た人々にとってのランドマーク的なものになっていたことも、丘陵上に位置していることから、充分納得することができました。

さらに大塚古墳は、ホタテ貝型であることが良く分かり、古墳の周囲から埴輪の一部が多く見られ、手で触れること（初めての経験）ができて感動しました。

次回の研修も楽しみにしております。ありがとうございました。

**宮城栄子さん**

とうもろこし祭りで賑わう道の駅とよとみを回避し、シルクラインから集合場所の市川三郷町ふるさと交流センターへ無事に到着。令和7年度県内研修へ参加させていただきました。晴天の三珠大塚古墳と伊勢塚古墳を約一時間、一之瀬学芸員の解説を聞きながら楽しく見学しました。釜無川旧河道の資料などを見比べながら、実際に甲府盆地を一望できる景色は、弥生（本物の須恵器の破片もあった！）の時期から人々が多く住んでいたことに思いを馳せることができました。5世紀頃、伊那谷に暮らす人々が信濃道を進んでくると、遠目でもわかるほど巨大な古墳を、南北の要衝に位置するこの地を目印にしていた時代にタイムスリップしてしまう、そんな感覚になった一日となりました。ありがとうございました。

**手塚理恵さん**

良い天気と爽やかな風の中での三珠大塚、伊勢塚両古墳への県内研修に久方ぶりに参加することができて本当に楽しく学ばせて頂きました。企画展示に合わせて現地での見学は、想像から現実へと様々な発見と共に大変興味深いものがあり、見学途中での土器の発見には被葬者への思いと帆立貝式という古墳の形に親しみを感じました。眺望からは位置によって山々の形の変化など、住まいのある地域からの眺めとは違う風景にも感動し、古代史の中に美しい山梨を再発見した県内研修でした。自らの体験を交えながらのご説明に聞き入りました。

無事に見学できましたことを職員の方々をはじめご一緒できた協力員の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

**村松暢子さん**

家から車で15分くらいのところの研修なのでこれは行かねば・・・と参加しました。こんなに近くに古墳が点在していたのかと、驚きました。地図上では存在を確認していても実地で見ると、位置関係や距離感がわかります。来館者に「こんなところですよ」なんて、説明もできるかも。

伊勢塚古墳は、登ってみると下から見た時より高い！入口付近から真ん中に向かってくぼんだ所は、中のせん道が崩れている可能性を言及されました。発掘して欲しいな～。

大塚古墳は、ほたて貝の古墳です。歩きながらも「ほら、そこ埴輪、落ちてますよ」と教えてくれました。私は下を一生懸命見ながら歩きましたが、見つけられませんでした。教えてもらったのを見ては「おお～」と感心して歩きました。墳丘部分には見つけることができました。（「持っていないでね」の注意つき）

暑い日でしたが、熱中症予防の飴やお水をいただき、安全に楽しく歩くことができました。一之瀬先生をはじめ、スタッフの皆さんありがとうございました。



### 内藤敏夫さん

「三珠大塚古墳」辺りに立つと、御坂山系の西端、東西に段層が延びる笛吹川左岸に広がる丘陵地帯です。甲府盆地北東部から笛吹川、北方から相川・荒川、北西から釜無川、やがて甲府盆地南西端で富士川となって駿河の国にむかう甲府盆地が一望できる。甲府盆地湖水伝説はさておき、こんなに景色の良い場所に築造された古墳に葬られた人は、どんな身分の人だったのでしょうか。

4世紀後半、東日本最大の「甲斐銚子塚古墳」の築造には、一日 500 人の労力に2年を要したといわれるように、古墳の築造には相当量の人力・労働力を投入する必要があり、この大規模な工事には労働力を集中管理することの可能な地位にある人物の存在が推定できます。

「三珠大塚古墳」は、前方後円墳の前方部の一部が壊されたのではないかなどとも聞いたことがあります。調査が行われるに従ってその概要がわかり、二重の周溝を伴う県内では数少ない帆立貝形古墳であることがわかりました。

5世紀になって大和政権による地方首長層への強力な政治的規制があり、前方後円墳の前方部が欠落したような帆立貝形古墳構造に変えざるを得なかったのではないかと考えられるのでしょうか。やがて、古墳が権力の象徴であった時代が終わりに近づき、築造が厳格に制限され薄葬令へとつながったのでしょうか。

研修資料の中で「治水地形分類図」の資料は、古墳の位置や盆地に形成していった各河川による扇状地の様子などとても参考になりました。実査の大切さを感じます。

次回の研修を楽しみにしています。

### 土屋常子さん

9時50分、市川三郷町のふるさと交流センターに集合ということでしたので、9時少し過ぎ、考古博物館を出発しました。途中渋滞になり、何だと思いましたが、道の駅豊富でとうもろこしの直売があるためではないかと気が付きました。別な道も分からず困ってしまいましたが、やっとぎりぎり着き、皆様にご心配をおかけしてしまいました。交流センターを10時過ぎに、徒歩で10分位で伊勢塚古墳に着きました。周りの景色を見てびっくりしました。いつも見る山々とは全く違っていました。山梨にもこんな景色があるんだと見とれてしまいました。石段を登り石祠を見ました。そこから、農道を歩き、三珠大塚古墳に行きました。ここもとても大きく、副葬品も多く、周囲から埴輪のかげらが見つかるかもと、今度は下ばかり見ていました。草の中にあった天井石も一之瀬学芸員さんに教えていただいて見る事ができました。徒歩での道では、地元の方とも、野菜、キウイ、ユリの花の話をしたりと、また別な楽しみもありました。こんな景色の良いところなので、多くの人達が住んで大きな古墳もあるんだろうな、私も古墳の発掘を試みたかったなあと思いました。学芸員さん、事務局の皆様には暑い中、個人では行けないところに連れて行っていただき、ありがとうございました。



**第42回特別展  
「PAPUA×JOMON」  
縄文文化の謎を考える  
-パプアニューギニアの民族誌-**

令和7年9月27日(土)から12月7日(日)までの期間、第42回特別展「PAPUA×JOMON」が開催されました。

今回の特別展では、早稲田大学考古学研究室が長年に渡り調査・研究してきたパプアニューギニアの民族資料と、多種多様な日本の縄文資料とを比較しながら紹介しました。遠く離れた両地域の儀礼や精神文化に見られる共通性に着目し、縄文文化を新たな視点から深く探る内容となりました。展示を通じて、縄文文化とパプアニューギニアの世界観を楽しんでいただけたことと思います。

65日間に及び会期中には、県内外から多くの皆さまにご来館いただき、入館者数は6,000人を超えました。協力員の皆さまには、長期間にわたる当番活動にご協力いただき、感謝いたします。

**【特別展オープニングセレモニー】9/26**



**【特別展勉強会】9/26・11/3**



**新規協力員さん 協力会の活動を振り返って…**



**佐藤君子さん**

私の住んでいる地域は、縄文時代の遺跡が多く出土しています。そんな地域で暮らしているのだから、少くらしい知識を増やしたいと思いボランティアに応募しました。正直、教科書に載っている知識レベルで大丈夫かと思いましたが、ショップでのボランティアがメインでしたので、負担なく、楽しくおつとめすることができました。

思い出に残っていることは、特別展です。パプアニューギニア展の常設展移設のときには、通常見ることのできない博物館の裏側を見ることができ、より縄文時代が好きになりました。また、いただいた図録をじっくりと読み、作品をじっくり見ることができたので、普段の見学とは違い、味わい深く作品を堪能することができました。そのせいもあってか、美術館で山下清展があった際には、午後の時間をたっぷりと絵画を鑑賞する自分に出会え、作品に対する見方が変わった自身の成長を感じました。特別展では、期間中ボランティアを3回も担当することになり、日程調整するのに悩みましたが、日常生活から離れ、静かな空間に身を置くことができ、生活に新たな潤いをいただくことができました。ありがとうございました。

**蒲生慶一さん 「初めての活動を振り返って」**

仕事をリタイアして全く畑違いの体験でしたが、とても楽しく活動させていただけたことに感謝しています。ありがとうございました。

活動の中で、インパクトがあったことを3つ挙げたいと思います。

- (1) 山梨の歴史・文化を学ぶキッカケとなったこと（特に縄文時代）  
山梨が縄文王国であることを初めて知り、縄文人たちの作った装飾性豊かな土器や土偶、そして精神文化に魅了されています。
- (2) 春と秋のイベントや火起こし・勾玉作りのサポートを通じて、5人の孫たち以外との子どもたちとのふれあいがあり、毎回元気をいただいています。
- (3) お土産ショップでの販売は、学生時代のアルバイト以来の接客仕事で、40数年前を懐かしく思い出しました。お土産が売れると嬉しいですね！

来年度は、ボランティアガイドとしてデビューしたいと思っています。引き続き、よろしくお願い致します。

**久保田菜々さん**

縁あって山梨に定住することになったからには、自分の暮らす地域の歴史を知りたい。そう思い立って始めた博物館ボランティアの1年目は、はるか昔の縄文人とお近づきになるための第1歩であった。ガイド研修を受け、館内にズラリと並ぶ縄文土器の見どころを解説してもらい、ショップ当番の合間に図録をめくってみる。企画展ではたくさんの釣手土器と出会い、特別展ではパプアニューギニアとの比較も学べた。人面装飾付土器のアーモンドアイを見つめ、隠れたヘビやイノシシを探し、圧倒的な水煙と優美なうすまきに見蕩れ、棒人間のダンスのようにも思える文様を眺めていると、縄文人たちの気持ちが……いや、分からん。中空土偶「ちゅーた」さんにいたっては目も合わない（そもそも目はあるのか?）。これらの土器には、物語を共有する者同士なら分かるストーリーが表現されているとのこと、グループの内輪話についていけなかった時のような寂しさが、ちょっとある。

一方で、なんとなく分かるような気がすることもある。これだけのデザインを施した土器をつくりあげた人物は、きっと手作業に没頭するのが苦にならないタイプだったんだろう。国の重要文化財に指定されている殿林遺跡出土の土器がまとう緻密な文様は、ある種の執念さえ感じさせる。“明日もおいしいものが食べられますように”。“みんな元気で過ごせますように”。おや、今年の初詣で願った内容とさして変わらないじゃないか。それがどうしてあのグルグル表現になるのかは、やっぱり分からないけれども。

近いようで遠い、遠いようで近い、縄文人とのお付き合いを、しばらく続けてみたい。

**宮川悟さん**

R7年度より考古博物館の協力員になりました。以前より私は山梨に棲む生き物の研究をしており、研究を進める中で、山梨の生き物と人間の関わりの歴史に興味を持ちました。このような時に山梨県立考古博物館が協力員を募集していると聞き、早速申し込みました。

私が山梨県立考古博物館の存在を知ったのは最近であったため、当初はあまり人々に知られていないマイナーな博物館なのかな、と思っていました。しかし、5月のこどもまつりや、秋の特別展当番を経て、県民から県外の人にもまで広く親しまれている博物館であることを知りました。

現在、私はボランティアガイド研修に2回参加しており、あと1回参加することで資格証をいただけます。今後の目標としては、山梨の古代史について勉強と経験を重ね、その魅力を発信していけたらな、と思っています。

**原美奈子さん**

協力会に参加して、1番印象に残っているのは、特別展の準備です。常設展の展示物の移動や配置替えなど丁寧に、かつ慎重に、1点1点移動し、梱包し・・・と人力作業で皆さんのお力がないとできない作業だと思いました。また、こんなふうに、地道にやっているとは思っていなかったのも、少々驚きでした。展示されている土器など、身近に接すると（めったにない機会です）可愛く見えたりして、その当時使っていたであろう人々の姿が目につかんだりして、楽しかったです。これからも、協力員として、できることはやっていきたいと思っています。宜しくお願い致します。

イベント、展示、当番等の日々のサポート・・・みなさまの温かいお力添えと前向きな姿勢に支えられ、無事に多くの活動を行うことができました。心より感謝申し上げます。来年度も、みなさまと一緒に笑顔で活動を積み重ね、当館の魅力をさらに多くの方へ届けていければと思います。（協力会事務局）

印刷：株式会社峡南堂印刷所